



私の  
**なんとか  
しなきゃ!**

Vol. 44

#### PROFILE

1982年生まれ。99年、「Love, Day After Tomorrow」で日本デビュー。以後、楽曲制作やライブなどで幅広く活躍中。東日本大震災の後は、東北の被災地でチャリティーコンサートを実施。「なんとかしなきゃ!プロジェクト」著名人メンバー。

初めてカンボジアに足を運んだ2014年3月。帰国して数カ月がたった今でも、現地で見えた光景がはっきりと頭に焼き付いています。

開発途上国のことは、これまでずっと気になっていました。日本では想像できない現実が、何の罪もない小さな子どもたちを苦しめている。この目でその現実を確かめて、自分のできることを探したい。心のどこかでそう思っていました。そしてついに、デビュー15周年となる今年、その夢が実現したのです。

最初に降り立ったのは、アンコールワット遺跡群で有名な都市シェムリアップ。その郊外の村で、日本の団体が“寺子屋”と称して学校に行けない子どもたちに学びの機会を提供していると聞き、訪ねることにしました。

そこで、一人の男の子に出会いました。将来の夢を聞くと「電気屋さん!」と明るく答えてくれたのですが、聞くと、家が貧しくて小学校を途中で辞めなければならなかったそうです。今はこの寺子屋で読み書きを勉強しているのだと、う

## 初めて見て、感じたカンボジア

アーティスト **倉木 麻衣**

KURAKI Mai



れしそうに話してくれました。

その真っすぐな瞳に心を打たれ、私も子どもたちの笑顔が増えるようなお手伝いがしたいと、音楽の特別授業を担当させていただきました。普段は全く音楽になじみのない子どもたち。最初は戸惑っていたようですが、手拍子をしたり、カスタネットをたたいたりする子が一人、二人と増えて、最後には一つのリズムが生まれていました。ここで学ぶみんなが自由に将来を選択できるような社会をつくらなければならぬと強く思いました。

首都プノンペン郊外の中学校での青年海外協力隊員の活動も心に残っています。グラウンドで運動会の練習を指導していたのですが、この国では体育の授業すらない学校がたくさんあると聞いて驚きました。体を動かす楽しさ、友達と協力する大切さなどを体育を通じて教えていて、子どもたちの成長のために本当に必要なことなのだと気がきました。

日本の協力で建設された国立母子保健センターでも、たくさんの発見がありま

した。安全にお産ができる場所が少なくお母さんや赤ちゃんの命が脅かされていること、その状況を改善するために日本人専門家の方々が現地の助産師さんたちと汗を流していること…。まずはお母さんたちに正しい知識を「母親学級」を導入していると聞き、日本では当然のように行われていることがいかに大切かを実感しました。それが途上国でも“当たり前”となるよう、私たちができることはたくさんあるはずです。

初めてのカンボジアでたくさんのものを見て、聞いて、自分の中でもまだうまく整理できていません。でも私が確かにこの目で見た現実を、何らかの形で、日本の多くの方々に知ってもらう機会をつくれたらと思っています。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトやFacebookの専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報を発信していきます。

「[なんとかしなきゃ](#)」で